

富嶽一景

能村 研三

新宿・百人町

俳句文学館に通勤するようになって五年が経った。都会への電車通勤という今までにはない経験であったが、ラッシュ時の通勤にも慣れてきた。

JR大久保駅の北口に降りると、ガード下の巨大壁画が目飛び込んでくる。戦国武将の合図で一斉射撃する鉄砲隊が、なんともやわらかいタッチで描かれている。コリアンタウンで知られる大久保駅前に、なぜ鉄砲隊の壁画があるのか。最初はわからなかったが、百人町という歴史にゆかりのある名前からいろいろなことがわかってきた。

新宿区の花は「つつじ」であるが、それもこの百人町と縁があることがわかった。

関ヶ原の戦いの後、現在の百人町に同心百人が配属された鉄砲組は「百人組」と呼ばれ、江戸城の警備のほか、將軍が日光東照宮などに参詣するときに警護にあたつたそうだ。鉄砲隊に深い由縁のある百人町の名はこのことからきている。

大久保百人は屋敷では余暇につつじを栽培したことが始まりで、つつじ栽培が盛んになり明治十六年に

真直なる海苔粗朶の列淑気かな
初東風や安房の巖の五百重波
初鏡竹の清氣を映しをり
年木積むまだ現役でゐる気概

掃初のわづかな塵に糶の粒

土匂ふ七草籠の編み荒し

大杉の天辺見えず初稽古

くちばしのごとき蒼の寒椿

雪晴の富嶽一景遥拝す

寒禽の声を一つに枝離る

「大久保つつじ園」が開園して一時は一万株が咲き誇り大勢の花見客でにぎわったと言われている。

現在は外国人居住者が多い町と言われているが、「音楽の町」「楽器の町」としても知られている。

駅を降りてガード沿いを俳句文学館に向かうとすぐ、行列が絶えないケバブの店があり、それを過ぎると東京交響楽団の練習所がある。ここへはかつて市川市文化会館の館長時代に、バイオリニストで交響楽団のコンサートミストレスを務める大谷康子さんを訪ねたことがあった。

少し先へ行くと、店頭にフルートなどの金管楽器が並ぶ楽器店があり、次第に喧騒から離れて、マンションなどが並ぶ住宅街になる。かつての大屋敷の名残をとどめながら街が形成されている。

よく昼食をとるホテルのレストランも、かつての屋敷跡に建てられたもので、大きな石灯籠がある庭があり風情のあるところである。

現在は俳句文学館での東京例会の開催を見合せているが、再開されたときは違った視点でこの町を見ていただければと思う。

能村 研三